

## はじめに

医師から「あなたの腎臓は働きが悪くなり、尿毒症をきたしています。今後は透析治療が必要とされます。」と説明を受けたとき、皆様方は大変なショックを受けられたことと思います。自分はなんと不運なのであろうと思われた方もおられるでしょう。私の命はもう長くはないのでは、と不安に思われた方もおられるかもしれません。

しかし、日本で透析療法が開始されてからの約40年の間に、その内容や患者さんを取り巻く環境は大きく改善いたしました。当初8時間程度だったこともある透析時間は4時間程度にまで減少しました。腎不全とその合併症の管理についても、いくつもの画期的な進歩がありました。透析療法が日本で開始された当初、透析の開始は即ち短い余命を意味すると思われていましたが、現在では透析患者さんの4人に1人は透析を10年以上継続している方となっています。中には透析歴39年という方もいらっしゃいます。

また、慢性腎不全の治療法も血液透析のほかに腹膜透析、腎移植と別の選択肢も出てきました。不幸にして慢性腎不全になられた患者さんが、より快適に生活していくためにご自身の生活スタイルや生き方にあった治療法を選択していく、という時代に入ってきているといえます。もちろん、十分な移植環境が整っていないなど、解決されるべき問題はまだまだたくさんあります。しかし、今後もそのような方向で慢性腎不全の治療が進んでいくことには疑いがないものと思われます。われわれはそのお手伝いを少しでもできればと心より願っております。

一方で、慢性腎不全を良好に管理し、快適な生活を送っていくためには、皆様方ご自身による病気や治療に対する理解も不可欠です。この冊子は、そのような目的のために作成されたものです。

透析患者さんの数は2007年に27万人を超え、その数は毎年約1万人ずつ増加しています。慢性腎不全はいまや稀な疾患などではなく、血液透析も特殊な治療法などではなくなっています。今後はさらなる医療の進歩によって“昔は透析なんてことをやっていたのですね”なんていう時代もくることでしょう。そんな時代までがんばるためにも、この冊子の内容をよく理解してしっかりと自己管理を行い、より快適な生活を送っていただきたいと願っております。